

競技注意事項

1. 競技規則について

本大会は 2026 年度日本陸上競技連盟規則、並びに本大会申し合わせ事項に従って実施する。

2. 招集について

- (1) 第一次招集は、**雨天練習場に設ける招集所**にて行う。番組編成にある本人の組・レーンを確認し、ナンバーに○をつけること。その際、競技中に着用するユニフォーム・アスリートビブス・腰ナンバーカード・競技使用予定シューズ・商標の確認を受けて招集完了とする。
- (2) 5000m 以上のトラック種目については、**第一次招集時に腰ナンバーカードと番号をあわせた特別アスリートビブスを配付する。なお、特別アスリートビブスおよび腰ナンバーカードは競技終了後、必ず競技役員に返却すること。**
- (3) 同一時間に 2 種目以上出場する競技者、および競技中のため他の種目の招集を受けられない競技者は、招集を受けることのできない種目の第一次招集完了時刻までに重複出場届を**正面エントランスに設ける TIC**に提出すること。これを持って重複出場届の手続きは完了とする。なお、原則、第二次招集には競技者本人が参加すること。
- (4) 種目別、組別の招集時刻は HP に掲載されている競技日程の記載の通りとする。
- (5) 重複出場届・当日欠場届は TIC にて配布する。

3. 欠場について

- (1) **事前に欠場者が判明している場合は 9 月 17 日 (木) 正午までに事前欠場届を関西学連(icaak.rec@gmail.com)までメールにて提出すること。**
- (2) 当日欠場は原則として認めない。やむを得ない場合に限り、当日欠場届を当該種目の第一次招集開始時刻までに TIC に提出し承認を得ることで、欠場が認められる場合がある。なお、当日欠場届には監督（不在の時は代理人）および本人のサインを記入すること。

4. 競技者の服装について

- (1) 競技者は原則として所属する団体で同一のデザインのユニフォームを着用すること。これはリレー競技に限らず、すべての種目について適用する。異なる形状のユニフォーム（トップス・ショーツ・ハーフタイツなど）を使用する場合も、色・デザインを統一させること。
- (2) 競技会における広告および展示物規程により、競技場内で着用できる衣類等に掲出できる製造会社名/ロゴ、スポンサー名/ロゴの大きさ、数については、HP 掲載の別紙『競技会における広告および展示物に関する規定（国内）』を必ず確認すること。違反した場合にはテープ等でマスキング処置を行う。
- (3) 全てのトラック競技の腰ナンバーカードは右腰に明瞭につけること。腰ナンバーカードは第一次招集時に招集所にて配付する。
- (4) 本大会は TR5.2 ルールを適用し、規格外のシューズの使用は全て禁止とする。
ただし、サークルを用いて行われる投擲種目（砲丸投、円盤投、ハンマー投）については、競技用靴に関する規定（Athletic Shoe Regulations）の適用対象から除外する。

5. アスリートビブスについて

- (1) 加盟校については、学連が配布した 2026 年度のアスリートビブスを使用し、ユニフォームの胸部および背部に折り曲げたりせず明瞭につけること。また、その他の競技者はエントリー時の番号を記載したアスリートビブスを使用すること。
ただし、跳躍競技においては胸部または背部の一方だけで良い。

6. 競技用器具について

- (1) 使用器具は原則として競技場備え付けのものを使用すること。ただし、個人所有のやり・砲丸・円盤・ハンマーの使用を希望する場合は、競技開始 90 分前から 60 分前に検査を受けて許可を受ければ、2 個まで使用することができる。検査は 100mスタート側（北側）器具庫で行う。
- (2) 棒高跳用ポールは、各自で持ち込んだものを使用すること。
- (3) フィールド競技のマークは、養生テープを使用すること。競技場保護のため、それ以外のテープは認めない。

7. トラック競技について

- (1) 計時について、トラック競技の計時は写真判定（0.01 秒）とする。ただし、装置に故障等のトラブルが生じた場合、手動計時（0.1 秒）とする。
- (2) 5000m 以上の競技において気象状況により給水を行う場合がある。
- (3) 救急搬送防止および選手の安全確保のため、審判長や競技役員が競技者の体調を見て、医師または医務員と協議のうえレースを中止させる場合がある。その場合、必ず指示に従うこと。
- (4) 本競技会は SIS（スタートインフォメーションシステム）を使用しない為、スタート時の不適切行為及び不正スタートの判断は目視で行う。

8. フィールド競技について

- (1) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。

種目	種別	ピット	試技開始	備考
走高跳	男子	A/B	1m85	2m10 まで 5cm 刻み、以降 3cm 刻み
	女子	A	1m45	1m55 まで 5cm 刻み、以降 3cm 刻み
棒高跳	男子	バック	4m00	5m00 まで 20cm 刻み、以降 10cm 刻み
	女子	バック	2m60	3m60 まで 20cm 刻み、以降 10cm 刻み

- (2) 走高跳・棒高跳の練習の高さは当日、選手と審判長の協議により設定する。また、悪天候などの不測の事態が発生した場合は、総務・審判長・関西学連の協議により設定の高さを変更し競技を行う場合がある。
- (3) 競技者が 1 人となった場合のバーの上げ方は、本人の希望により決める。ただし、2 つのピットに分かれている場合は、両ピットを通じて 1 人になった場合に限る。
- (4) 三段跳の踏切板の位置は、男子は 13m、女子は 10m とする。
- (5) 走幅跳（混成競技含む）及び三段跳の踏切判定には、粘土板を使用する。（ビデオカメラは使用しない）
- (6) 跳躍種目の公式練習は、競技役員の指示に従うこと。
- (7) 棒高跳の公式練習を行う際はゴムバーを使用する。
- (8) 投擲種目の公式練習は最低 2 回とする。ただし、ハンマー投は 1 回とする。
- (9) 現場の審判員が許可を与えた上でコーチ席にアドバイスを聞きに行くことができる。しかし審判員の指示に従わない場合は選手・コーチに警告を与え、さらに続いた場合は審判長・総務・関西学連等で協議し対処する。（TR6.2）
- (10) 走幅跳、三段跳、投擲競技の試技回数は 3 回とし、3 回試技の結果上位 8 名はつかいで 3 回の試技を行い順位を決定する。
- (11) 男子走幅跳は予選（試技回数 3 回）を行う。予選通過標準記録を突破した者が決勝に進出でき、予選通過標準記録を超えた競技者が 12 名に満たない場合は、予選記録上位 12 名まで決勝に進出させる。

9. 抗議について

- (1) 競技の結果または競技実施に関する抗議は、競技規則に定められている時間内（同一日に次ラウンドが行われる場合には正式結果発表後 15 分以内、それ以外は 30 分以内）に競技者自身または代理人が、TIC に口頭で申し出ること。審判長が再度検証し、総務員を通じて裁定を伝える。（競技規則 TR8.2, 8.3）

- (3) 抗議受付は、TIC に設ける。必要用紙に記入し、行うこと。

10. 悪天候時等の対応について

- (1) 競技の実施が不可能となることが予想される場合には、関西学連会長・ヘッドコーチ・競技委員長・事務局長・幹事長と陸協等で方針を協議する。
- (2) WBGT 値が 31 以上となった際は競技を中断または中止することがある。
- (3) **中止となった種目のエントリー料の返金を行わない。**

11. その他

- (1) 記録の正式発表は大型ビジョンにて行う。
- (2) 事前欠場者の人数により、番組編成を変更する場合がある。
- (3) 記録証明書の発行を希望する競技者は、正面エントランスに設けるインフォメーションセンターへ発行手数料 300 円を添えて申しこむこと。
- (4) **競技場内に立ち入る際は、競技場保護のためヒール等の底の固い靴は一切禁止し、アップシューズもしくはスニーカーで入場すること。学生審判員・学生補助員についても同様とする。**
- (5) 競技者は競技区域内にビデオ装置・レコーダー・ラジオ・CD・トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を持ち込まない。(競技規則 TR6.3.2) ただし、フィールド種目に出場している競技者は映像を撮影した人とコミュニケーションをとりながら録画 再生機器を手にしても良い。(競技規則 TR6.4.5)
- (6) 注意事項及び競技者としてのマナーを逸脱した行為が見受けられた場合は、その該当者の所属する団体の以後の競技を中止させ処罰を与える場合がある。
- (7) 大会期間中に疑問な点があれば、大会本部まで申し出ること。

関西学生陸上競技連盟